

# 週間感染症情報

2023年28-30週 2023年7月10日より2023年7月30日まで

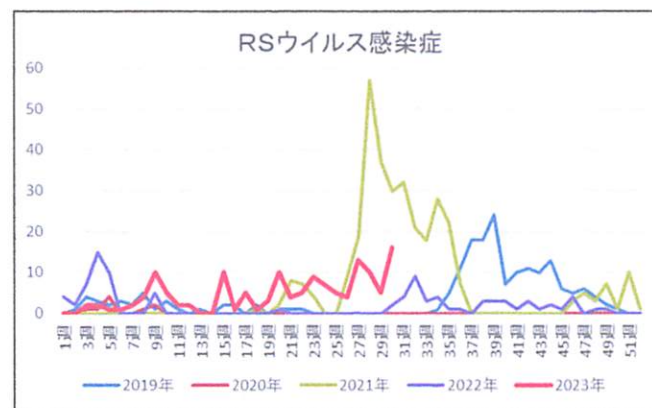
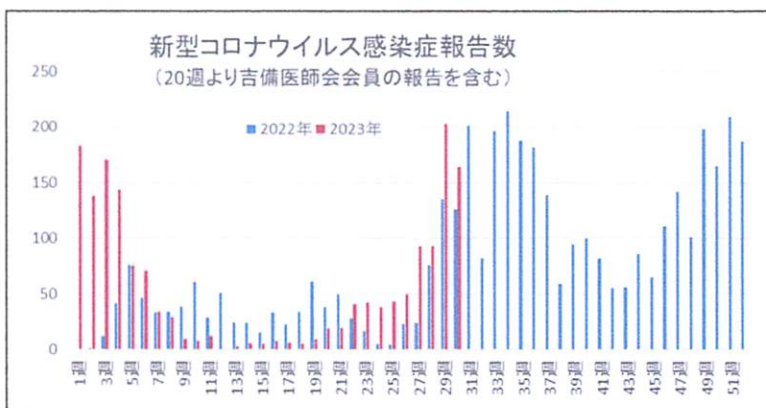
28週 29週 30週

麻疹			
風疹			
水痘(みずぼうそう)		1	1
ムンプス(おたふくかぜ)			
百日咳			
溶連菌感染症	5	2	3
手足口病	12	21	32
ヘルパンギーナ	13	14	12
伝染性紅斑			
感染性胃腸炎	22	23	27
ロタウイルス(再掲)			
便アデノウイルス(再掲)			
突発性発疹	3	3	1
伝染性膿痂疹(とびひ)	7	7	4
ヘルペス性口内炎			
アデノウイルス感染症	2		
RSウイルス感染症	10	5	16
マイコプラズマ感染症			
ヒトメタニューモウイルス			1
インフルエンザ	43	14	0
インフルエンザ A	40	14	0
インフルエンザ B	0	0	0
新型コロナウイルス感染症	93	203	164

28～30週の3週間分の報告です。左下の新型コロナウイルス感染症のグラフは、20週より吉備医師会の先生方の報告を含みます。多くは成人例でおよそ報告数の半数です。29週は203例でした。当番医の先生方の報告が多かったです。7月30日は当院が当番医でしたが、抗原検査30例のうち20例が陽性で、抗原検査陰性でPCRをした1例も翌日に陽性と判明しました。高校生から50代までの方が半数以上で、症状があっても受診しない方やマスク着用しない方もおられ感染源不明の方が多かったです。これから、お盆を控え楽しい行事も多く、さらなる感染拡大が懸念されます。この夏はせめて密な環境ではマスクの着用をお願いします。

インフルエンザAは夏休みの入って減少し、30週は報告なしでした。しかし、介護施設でのインフルエンザAのクラスターの発生があったようです。まだまだ気が抜けません。手足口病・ヘルパンギーナは年少の保育園児の間で流行しています。感染性胃腸炎は、発熱・腹痛・が強く血便を認めるカンピロバクターの症例が増えてきました。

RSウイルス感染症は右下のグラフのように2023年は10例前後の報告が続いています。2021年度は久しぶりの流行で大きな山になりました。コロナ対策で流行が2年近くなかったこともあり、比較的年齢の高い症例が多かったです。2023年度は、家族内感染の新生児や乳児の症例が多くなりました。入院になる症例も増えています。体調不良の場合は休み、手洗い・換気、周囲の感染状況によるマスクの着用は引き続きお願いします。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com> )